

「永い間見失っていた祖先や同胞の姿を見出し、その環境の源を遡る時、吾等は吾等自身の行手に目覚める」。昭和初期に刊行された民俗資料を復刻、現代社会を再考する一助となる文献集。

日本民俗選集

第二回全7巻

小川直之 編・解説



クレス出版

日本民俗選集 第二回全7巻 小川 直之 編・解説

- 第8巻 山村民俗誌 (田中喜多見著)、漁村民俗誌 (桜田勝徳著)、海島民俗誌 (本山桂川著)
定価15,000円(税別) ISBN978-4-87733-508-3
- 第9巻 壱岐島民俗誌 (山口麻太郎著)、天草島民俗誌 (浜田隆一著)
定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-509-0
- 第10巻 五島民俗図誌 (久保清・橋浦泰雄共著) 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-510-6
- 第11巻 奥隅奇譚 (中道等著)、遠江積志村民俗誌 (中道朔爾著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-511-3
- 第12巻 農民俚譚 (佐々木喜善著)、芸備今昔話 (及川儀右衛門著)、江戸の口碑と伝説 (佐藤隆三著)
定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-512-0
- 第13巻 南島情趣 (本山桂川著)、日本の祭礼 (本山桂川著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-513-7
- 第14巻 琉球百話 (鳥袋源一郎著)、八重山古謡 (宮良当壯解説・宮良長包採譜)
定価16,000円(税別) ISBN978-4-87733-514-4

A5判/上製クロス装 平成21年12月末日刊行
揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-515-1(セット) C3339

日本民俗選集 第一回全7巻 小川 直之 編・解説

- 第1巻 日本民俗学論考 (中山太郎著)、史譚と民俗 (本山桂川著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-463-5
- 第2巻 民俗断篇 (西村真次著)、民俗と建築 (今和次郎著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-464-2
- 第3巻 島国の唄と踊 (田辺尚雄著)、絵文字及源始文字 (田崎仁義著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-465-9
- 第4巻 信仰と迷信 (富士川游著)、民俗怪異篇 (磯清著)
定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-466-6
- 第5巻 満洲・支那の習俗 (永尾龍造著)、東北の土俗 (日本放送協会東北支部編)
定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-467-3
- 第6巻 江戸情調 (笹川種郎著)、かくれさと雑考 (上林豊明著)
定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-468-0
- 第7巻 年中行事 (北野博美著) 定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-469-7

揃定価89,000円(税別) ISBN978-4-87733-470-3 C3339

日本文化 全10巻 日本文化協会 発行 井上順孝 解説

戦時下に刊行された、文学・宗教・国学・思想・歴史等に関する論集。

第一冊(昭和12年7月)～第九十七冊(昭和19年12月)

揃定価145,000円(税別) ISBN978-4-87733-488-8, 489-5


なら——高田十郎雑記 全3巻 池田末則 解説

「奈良学」研究の泰斗——高田十郎の大冊直筆稀覯本。

第1号(大正9年8月)～第57号(昭和8年10月)

揃定価48,000円(税別) ISBN978-4-87733-206-5

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

●書店名

「日本民俗選集」第二回全七巻の発刊にあたって、今回の選集に含めた書冊の位置づけについて述べておきたい。第一回選集では、磯部甲陽堂から刊行された「日本民俗叢書」を中心に十三冊を選び、昭和初期には多様な民俗学が存在したことを示した。それは、後に民俗学的方法や対象が体系化されていくなかで、民俗学の枠外へと追いやられた課題や方法を中心としたものであった。こうした書冊を多く選んだのは、人文科学全体が混沌とした現代状況のなかで、今後、民俗学を再構築するための、民俗学形成期の「民俗学」がもった多様な視点と内容を確認しなければならぬからであった。

多様な「民俗学」の後に顕在化するものが、今回「日本民俗学選集」第二回の選択軸とした「民俗誌」という視点である。日本の各地方がもつ地域生活の実態把握は、新渡戸稲造が唱える「地方学」と呼応した柳田国男の郷土研究に始まり、民俗学の潮流もここに端を発する。具体的には、大正二年に雑誌「郷土研究」が発刊され、大正十年には郷土研究社から、早川孝太郎の『三州横山話』に始まる「炉辺叢書」が刊行される。同じ年には渋沢敬三がアチックミュージアムを創設し、その活動は大正十四年から本格化し、『郷土研究』によって学問的な途が拓かれた折口信夫も大正十一年には「民間伝承蒐集事項目安」を発表する。こうして大正十年代には、各地に育った民俗研究者による地域民俗の調査成果が次々に公刊されるようになる。

「民俗誌」の名を付した書冊は、炉辺叢書の一冊である昭和二年の笠松彬雄「紀州有田民俗誌」が嚆矢で、その後、昭和七、九年にはいくつもが刊行される。今回の「日本民俗選集」では、すでに炉辺叢書の『紀州有田民俗誌』は復刊されているので、昭和七年からの「民俗誌」を中心に、大正末から昭和九年までに刊行された地域民俗に関する書冊を選び、一部、戦中の刊行物を加えた。

ここに収めた十六冊のうちでは、年代的には本山桂川の『南島情趣』が大正十四年刊行でもっとも古い。この書は本山の大正十二年暮れから翌年にかけての先島諸島・与那国島で見聞した生活と民俗を記した炉辺叢書『與那国島圖誌』の姉妹編とでもいべきもので、与那国島の民俗を中心に叙述している。次は宮良当壮・宮良長包の『八重山古謡』(一、二)で、当壮による歌詞研究と長包による音楽的研究から成っている。宮良長包は近代沖縄音楽の先駆者で、後には作曲活動も行うが、同書には古謡・民謡を五線譜へ採譜した資料が収録され、極めて貴重な書冊といえる。

「民俗誌」と名付けられた書として、濱田隆一「天草島民俗誌」から昭和九年刊の三冊と橋浦泰雄『五島民俗図誌』を収めた。図誌も含めて七冊の「民俗誌」を並べてみると、その手法と内容には差があるのがわかる。『岩崎島民俗誌』、『五島民俗図誌』、『遠江積志村民俗誌』は、限定された地域の民俗を叙述するものであるのに対し、『山村民俗誌』や『漁村民俗誌』は日本の山村や漁村の民俗を論述したものである。山口麻太郎、橋浦泰雄は民俗学者として高く評価されているが、改めてこれらを見ると、中道朔爾の調査や民俗叙述は、二氏に並ぶといえる。本山の『海島民俗誌』は伊豆諸島の民俗叙述である。

収録した書冊個々の民俗学上の位置づけは各巻解説で行うので、ここでは一部の例示にとどめるが、いずれについてもいえるのは、民俗学からの地方あるいは地域発見の書冊ということが重要である。民俗学再構築の基盤がここにあるからだが、各書冊は出版から年月を経て、現在ではほとんどまったかたちでの閲覧や人手は困難となっている。

第9巻「岩崎島民俗誌」

岩崎島民俗誌

四四

(口) 食は最上のもてなし

來客があれば、飯の時間であつても無くても、白い飯をたいて賄ふのが最上のもてなしである。客の方でも遠慮するが、賄ふ方では無茶苦茶な強い方をするのが、もてなしの真心と考へられて居る。相手の腹が太きいのも、出した御馳走がまづからうとも、そんな事は全く考へないで、只無理強ひに強ふるばかりである。給仕をするにも、客が少しばかりと云つても、山盛りにして押しつけて盛るのである。それではないとお客の方でも有難くないのである。強い方が足らぬとか、飯のツギ方が少いとか、茶碗が小さいとかの蔭口は、しばしば聞かされる事である。

祝事をしてても、供養をしてても、お土産には必ず飯をつける。それは口上はオイブツ様にと云ふのであるが、重箱飯と云つて、其の日の貰ひ物のうつりの重箱や榮重に、一杯飯を贈るのである。ウツリの重箱が無い時は、こちらの重箱に入れて贈る。お客に對してばかりでなく、隣近所にもお土産に飯をそへて配る。

實に米の飯は年に幾度きり食ふ事の出来ぬ、最上の御馳走なのであつた。昔は「一生八月常月夜、米の飯に小菜の汁」で太平の世であつたのが、それでは人間が良過ると云つて、今の様に夏があり冬があり、月夜があり暗夜があり、食物も米の飯に小菜の汁が食物としての理想となつた

第13巻「日本の祭り」

筑前 太宰府の鬼燻へ

(一月七日)

福岡縣太宰府町では一月七日別項記載の鬘替が終つて後、引續き「鬼ふすべ」といふ追儺祭が執行される。此の神事は往古武藏寺及び觀世音寺で行はれ、通りかかりの者を捕へて鬼の面を被せ、人々之を打つて郊外に追拂うたものださうだが、今は太宰府神社境内の稜殿で行はれてゐる。

同日午後九時迄に、鬼の警固(警護する組)と燻方、鬼を燻べる組)とが神苑に繰込んで来る。其の後には、鬼係、大町三十名、警護、新町、五條町六十名、燻手、三條町、連歌町、馬場町七十名がつづき之に一名の鬼が加はるのである。いふ迄もなく鬼係と警護とは鬼の味方を勤め、燻手は始終鬼を苦しめる攻方となる。

午後八時半頃になると古川町に集つた警護の中五十名餘は、長さ八尺餘の大松明を擔いで官司を迎へに行き、之に隨つて境内拜殿前に繰込む。次いで爾餘の警護方は手に手に木槌を持ち、一團にかたまつて揉みながら「鬼ぢや〜」の掛聲で練つて来る。一方には又燻手が繩の襷、鉢巻姿で、手には長大な唐扇や鍵などを振りかざし勢揃ひをする。

日本民俗選集 第二回全7巻

第8巻

山村民俗誌 ―山の生活篇―
山中喜多見著／昭和8年／一誠社
【内容】 山小舎、山の信仰、服飾装身のこと、作業及び木の部属、山の樹目、川下げ木流し、山の工作品、雪の種々相、山がたの地名、山と民俗、山林と食物、山は未知数
漁村民俗誌

接田勝徳著／昭和9年／一誠社
【内容】 海の人々、漁祭と海の信仰、船と航海
海島民俗誌 伊豆諸島篇
本山桂川著／昭和9年／一誠社

【内容】 伊豆の島々、島と島人、伊豆諸島の服飾、伊豆諸島の民家、伊豆諸島の習俗、伊豆諸島の祭祀、七島流人追想、八丈島方言抄、御蔵島探訪記

第9巻

岩崎島民俗誌

山口麻太郎著／昭和9年／一誠社
【内容】 屋敷と家、衣服装身、食事、婚礼、妊娠と分娩、育児、町の子供、風トバシ、疾病治病、からだ、ことば、行為、死と葬式と供養、田の神、畑の神、小崎蟹、八日市、交易、海は街道、浦人、火と籠、籠神、請鍛冶、神と仏と化物 ほか
天草島民俗誌

浜田隆一著／昭和7年／郷土研究社
【内容】 正月行事の二つ三つ、田作に関する習俗、なごし(夏越)行事、雨乞行事、たなばた祭、神送りと神待ち、山の神まつり、ふむし(椿象) 退散の御符、行事十条、河童雑記、河童記事、木石有情談、天草と琉球、天草の抱癒神信仰

第10巻

五島民俗図誌

久保清・橋浦泰雄共著／昭和9年／一誠社
【内容】 概要、年中行事、婚姻、出産と年祝、葬式と年忌、伝説、妖怪変化、民譚、俚諺、歌謡、禁忌卜占、方言、動物、植物、古代人の遺物と遺跡、協同生活、補遺雜録、島内めぐり

第11巻

奥隅奇譚

中道 等著／昭和4年／郷土研究社
【内容】 文字軽石と化す、箭の根森、垂跡の主田村麿、田村と鬼神、手長足長、鯛島の怪、尼が寄進の如来像、狐のしわざ、難船を救ひし鮑、巨樹の話、人を恣せし河童、独活を忘む薬師、日名流の獅子舞、日名の神力万才、南部の恐山 ほか
遠江積志村民俗誌

中道朔爾著／昭和8年／郷土研究社
【内容】 説話(有玉伝説の考察、三方原と千人塚、法源禪師と積志村、経堂之記、万斛と家康、信仰の口碑と伝説と ほか)、生活(住居に就いて、食物を中心としての生活、服飾諸相、出産に関する土俗、葬式挿話、八幡社と流籠馬 ほか)

第12巻

農民俚譚

佐々木喜善著／昭和9年／一誠社
【内容】 和賀郡昔話、岩手郡昔話、胆沢郡昔話、地藏雑話、大岡裁判の話、短信五章、不老長命の話、縁女綺聞、鳥虫木石伝
芸備今昔話

及川儀右衛門著／昭和9年／一誠社
【内容】 河童の話、トウビヨウの話、無縁塚の怪談、雨夜に海底から泣声の聞えて来る話、小児を犠牲として鐘を鋳た話、山が相争つた話、蚊帳待ちの話、吉備といふ国名の由来 ほか
江戸の口碑と伝説

佐藤隆三著／昭和6年／郷土研究社
【内容】 茶碗屋敷、将門の怨霊、鶴の伝へし靈薬、麻布七不思議、烏金の由来、正雪の井戸と正雪桜 ほか

第13巻

南島情趣

本山桂川著／大正14年／聚英閣
【内容】 島の伝説、島の女性、南島の情趣と其の民謡・童謡、島の衣食住、天から落ちた糸満人、女護島の話

日本の祭り 祭祀民俗誌
本山桂川著／昭和17年／八弘書店

【内容】 火祭神事篇、舟祭神事篇、農耕神事篇、神いさめ神事篇、諸国祭礼篇

第14巻

琉球百話

島袋源一郎著／昭和16年／沖繩書籍
【内容】 沖繩への旅路、琉球の古神道、悲恋に泣きし島の娘、由緒も古い琉球八社、琉球を経由した大陸文物、貿易船の帰来と那覇港の騒動、黒白の対立、絢爛たる琉球紅型、和歌に堪能な維新慶賀使、風変わりな辻の氏神祭 ほか

八重山古謡 第一輯

宮良当壮解説・宮良長包採譜／昭和3年／郷土研究社
【内容】 鷲の鳥・ユンタ、猫・ユンタ、猫・ジラバ、富崎野の小牛・ユンタ、ジラバガのソーソーマ井戸・ユンタ、松金・ユンタ、首里地・ユンタ、無蔵トローラ・ユンタ、真平良乙・ユンタ、クイチヤ踊、禪節、潮招蟹節

八重山古謡 第二輯

宮良当壮解説・宮良長包採譜／昭和5年／郷土研究社
【内容】 コイナ・ユンタ、山原・ユンタ、南キドー・ユンタ、網張の目高蟹・ユンタ、宇根の屋・ユンタ、古見の浦のブナレーマ・ユンタ、ナサマ屋・ユンタ、新城の節・ユンタ(世願ひの歌)、雨乞ひの歌(世願ひの歌)、崎山節、湊節、デンサ節 ほか